

真庭市役所本庁舎は、

木（バイオマス発電の電気とバイオマスボイラーの熱）

太陽（敷地内の太陽光発電）

人で動いています。

真庭市長 太田 昇

真庭市役所本庁舎は、
地域由来の再生可能エネルギーを
100%使用しています。

- ・CO2削減量:420t
- ・電気代等削減費用:600万円
（重油(86円/L)使用比較)

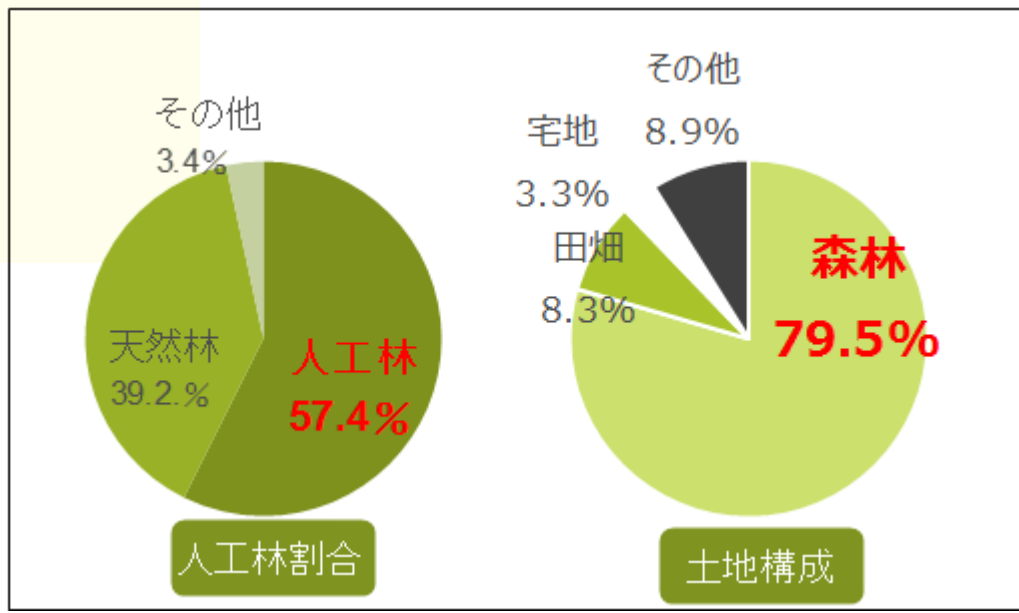


1 真庭市の姿



◆真庭市のプロフィール

場所：岡山県の北部
 面積：約828km²（東京都23区の130%）
 人口：約4.3万人（東京23区の0.4%）
 特徴：市域の約8割が森林
 日本有数の木材集散地

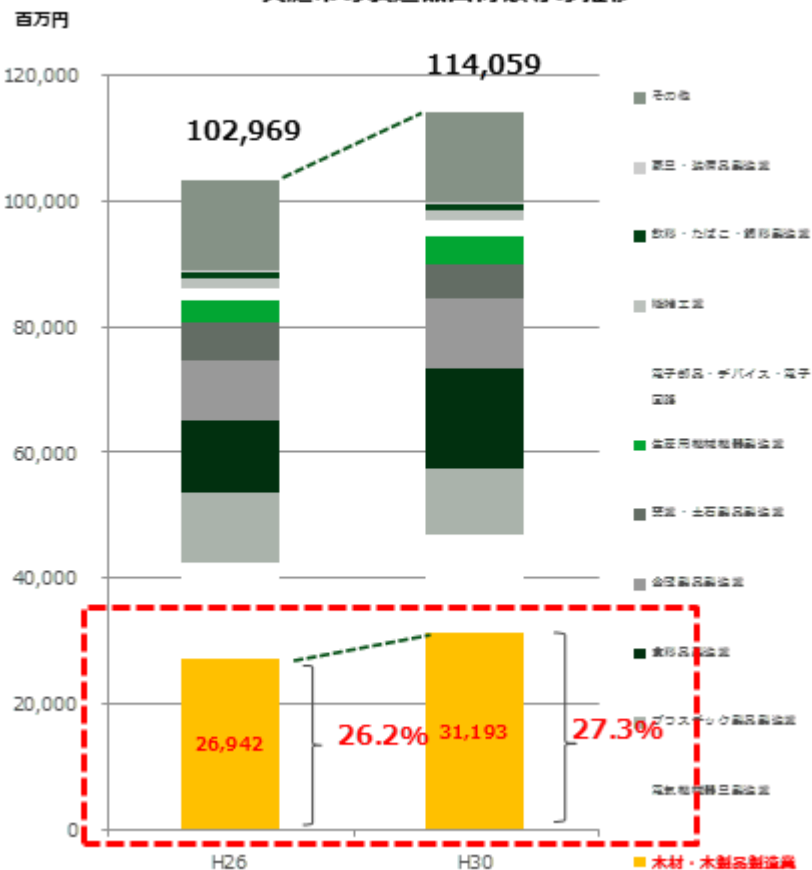


2 木材のまち：真庭—木材を中心とした経済—

○真庭市の製造品出荷額の約3割
(312億円) は木材・木製品製造業

○木材の市場が複数あるなど、バリューチェーンが市内で完結。日本国内では、**全国有数の木材集散地**として有名

真庭市の製造品出荷額等の推移



出典：工業統計調査



素材生産業者：約20社
従事者数：約240人
(平均年齢40歳台)



原木市場：2社3市場
取扱量：約13.8万m³/年
(岡山県の取扱量(41万m³/年)の約1/3)



製材所：約30社
(原木丸太仕入れ量：約20万m³/年)
(製材品出荷量：約12万m³/年)

製品市場 1市場



木質バイオマス発電所(稼働中)：2機
真庭バイオマス発電所(10,000kw)
銘建工業所有発電所(5,000kw)

3 安全・安心の観点からみた現状

- ・日本の食料自給率 38% (カロリーベース)
- ・日本のエネルギー自給率 11.8% → 2017年OECD35カ国中34位
特に電力供給体制は中央集権的体制
エネルギーの効率的産出と消費、余剰発電と送電ロスの解消のためにも、地方分権、エネルギー自給圏の分散が必要

日本の現状を
変えていかなければならない

真庭市が
先頭に立つ決意！！

・真庭市のエネルギー自給率62%

※内真庭バイオマス発電所33%

バイオマスエネルギー + 太陽光エネルギー + 水力エネルギー
市内全ての消費エネルギー

真庭市のエネルギー自給率は、既に60%を超えていますが、直接、工場や家庭に真庭市で発電した電気を配電しているわけではありません。

最終的な目標は、電力需要を全て地産の自然再生エネルギーで賄い、

「再生可能エネルギー自給率100%」の、SDGs 未来杜市「真庭」を目指す！！

今後は、 ①第2バイオマス発電所の建設、②地域マイクログリッド構想の実現

による **電力の地産地消** に取り組んでいく

自給圏の確立が日本と地域の持続的な発展に繋がる

4 木を使い切る真庭

(木質バイオマス発電所を中心とした循環経済圏)

- 真庭バイオマス発電所を中心に、**地域から出る木材を余すことなく使い切る循環経済圏の構築**を実現
- 今まで**産業廃棄物として処理**（処分費相当**1億円以上**）していた**未利用の木材を燃料として活用**

【木質バイオマス発電所】



- 発電能力：**10,000kW**（年間発電量約8万MWh）
- 使用燃料は、**年間11万t程度**。原則として**地域から出る木材のみ活用**。

売上：約23.1億円

※燃料購入：14.2億円

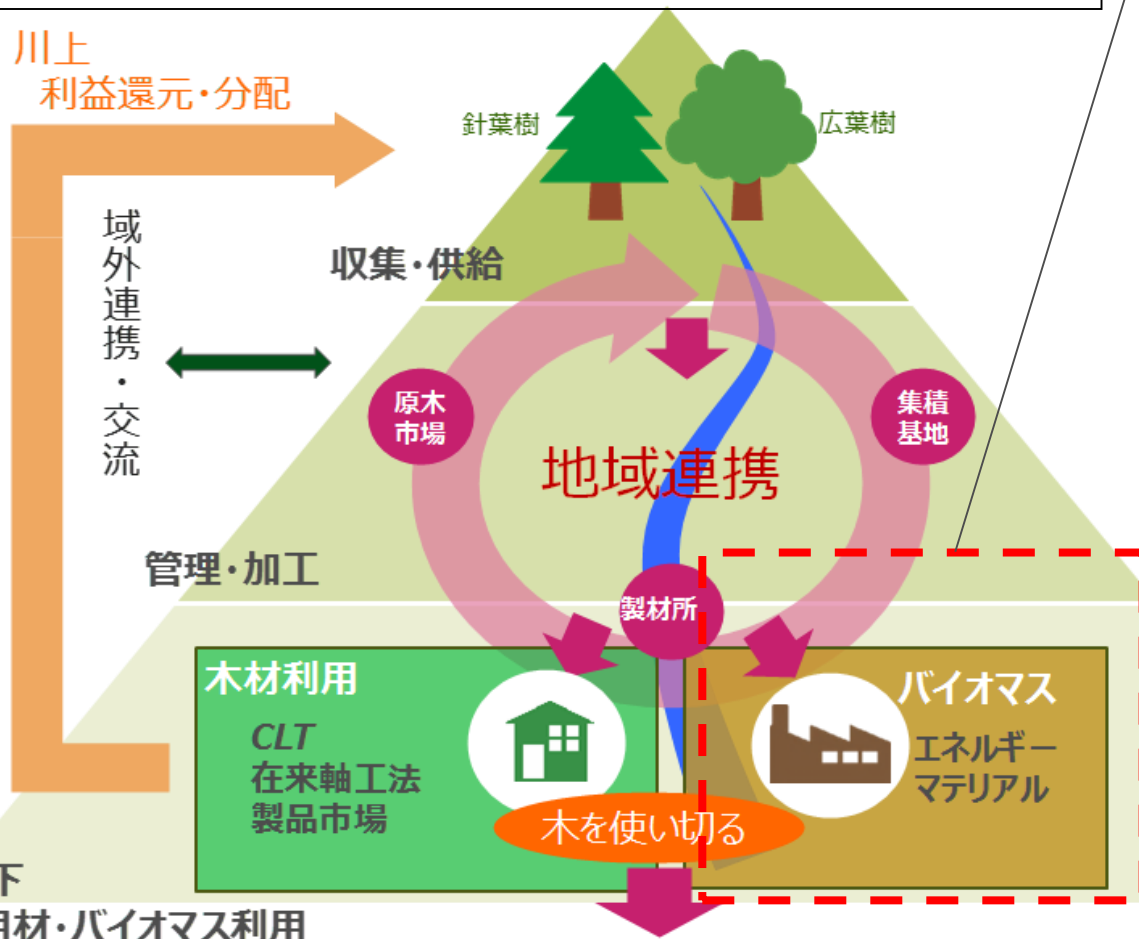
うち山林所有者に燃料代の一部を還元（550円/t）

合計還元見込額⇒**約2億円**（H26.10～R3.3）

石油代替：23.5億円相当

※灯油価格84円/lで算出

川上
利益還元・分配



地域産業の発展、雇用創出、地域力の向上

5 GREENable HIRUZEN

(SDGs 未来杜市「真庭」の新たなランドマーク)

【蒜山⇄晴海プロジェクト】

■ 2019年

真庭で製造されたCLTを使用し、隈研吾事務所のデザインにより、CLTパビリオンを晴海に建築
→CLTの魅力と木材の文化・情報を発信

真庭産CLTの里帰り



真庭に移築リユース

■ 2021年

晴海での役目を終えたパビリオンについて、部材をリユースし、**真庭市の国立公園蒜山（ひるぜん）に移築。**

都市と農山村を結びつける観光文化発信拠点「**GREENable HIRUZEN**」として、新たに本年7月15日にオープン。

(オープンから6ヶ月で13万2千人来場)

真庭市

晴海

分解・運搬

晴海で建築・運用
(2019年秋～2020年秋)



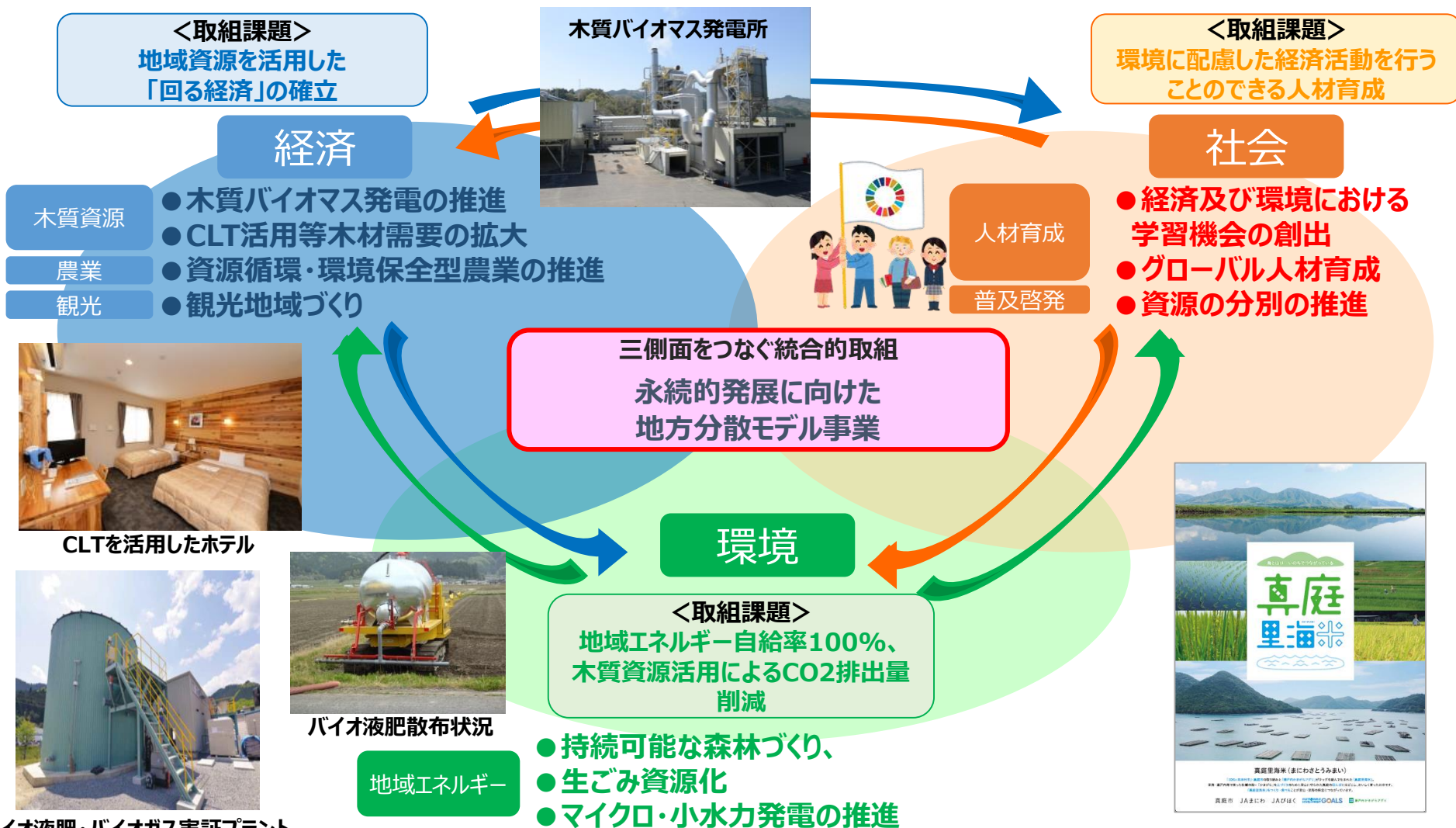
6 地域資源を生かした「回る経済」を確立する (生ごみ・し尿等液肥化事業)

生ごみ等を資源化させることでごみ処理費用の削減と有機性廃棄物の活用を目的とし、2014年に市内の民間事業者が協同組合を設立、年間計画量1,500トンのモデルプラントで、生ごみ・し尿・浄化槽汚泥を、バイオ液肥に変換し田畑への肥料に使用、副産物のバイオガスは発電に利用。2014～2016年に国の委託事業で実証を行い、システムの構築を図った。本格プラント建設へ向けて候補地を公募し、4地域の地域提案が上がり、有識者で構成する選定委員会の答申を受けて、候補地を決定した。



7 地方創生に向けた「SDGs」の推進 (SDG s 未来杜市「真庭」)

真庭市の取り組みが優れたものとして、**全国124の「SDG s 未来都市」に選定**（第1回目選定2018年）され、取組自体も先導的だとして、**全国40の「自治体SDG s モデル事業」に初年度に選定**。



8 地方創生に向けた「SDGs」の推進

(SDGs の取り組みを市民活動へ)

真庭SDGs
円卓会議

場づくり

マクロ的な真庭市全体の今後1年間の方向性を共有する場



- ・進捗管理
- ・情報共有
- ・連携強化

構成員間の連携等を
通じたSDGsの推進

真庭SDGs
ミーティング

人材づくり

それぞれが具体的なアクションを考え、取組をブラッシュアップする場



仲間づくり
情報交換



情報収集



SDGsの理解
事業との紐づけ



アクション
プランを立てる



発表・発信
ブラッシュアップ

- ・SDGsカリキュラム
- ・SDGsアクション
- ・SDGs人材育成

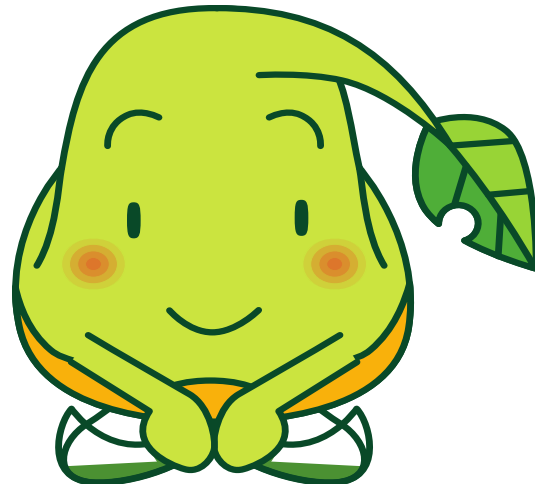
市民運動への拡大、SDGsの達成

■ 真庭SDGsパートナー（＝円卓会議構成員、ミーティング参加者）

- ① 真庭市のSDGsの取組に賛同し、パートナー宣言を行った企業・団体、個人
- ② 環境、教育、福祉、医療、産業などあらゆるステークホルダーがパートナーに登録

※2021年12月14日現在：**210団体、15個人**が登録

ご清聴ありがとうございました。



(蒜山高原)

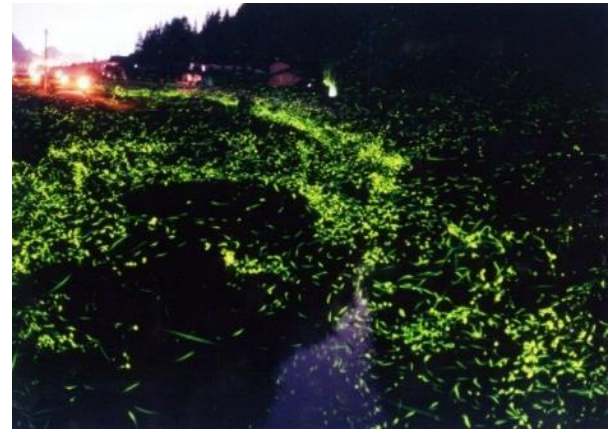


(勝山のれんの街)

真庭市キャラクター
「まにぞう」



(落合・醍醐桜)



(北房ほたる)

真庭市役所
〒719-3292 岡山県真庭市久世2927-2
TEL ; 0867-42-1111
URL ; <https://www.city.maniwa.lg.jp/>